



私の
なんとかしなきゃ!

Vol. 11

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1993年、古賀いずみ、漆戸啓のいとこ同士のユニットとしてデビュー。95年にリリースした「冬のファンタジー」が70万枚を超える大ヒット。2001年には「ひまわり」がボランティア国際年のサポートソングに。02年にパキスタンのアフガン難民を訪問、現在は広島で平和をテーマにしたコンサートを行うなど社会貢献活動にも積極的に取り組む。2011年1月より「UN Women(男女平等と女性の社会的地位強化のための国連機関)さくら」の親善大使。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

2001年秋、日本人のアーティストが集まり「アフガニスタン難民チャリティーコンサート」を開催しました。デビューから8年、ただ歌うだけでなく、歌を通じて何かしたいと考えていた時。私たちにできることがあればと参加させていただいたのですが、なんと、そこで集まった募金を現地に届けるという大役を任されることになったのです。

それまで、紛争などをテーマに曲を作ったことはありましたが、実際に現場に足を運んだことはありませんでした。もしかしたら、これまでの音楽が作れなくなるような衝撃が待っているかもしれない。不安よりも、その先に起こり得る変化を期待していました。

そして年明けすぐ、アフガン難民が暮らすパキスタンへ。そこで直面したのは、銃を片手にたたずむ警察官や無表情で物乞いをする子どもたちの姿でした。小学校に行くと、地雷の対処法についての授業が行われていて…。なぜ子どもたちが、こんなことを学ばな

ければならないのか。彼らに課せられた試練があまりにも過酷で残酷に思えて、胸が張り裂けそうでした。

でもふと、街角の小さなお店で飲んだチャイが、すごくおいしかったんです。どこに行っても、そこには“日常”があるんだ。そう思えた瞬間でした。そして次の日、朝もやの中、校庭に集まったのは、元気よくあいさつをする“普通の”子どもたちでした。私たちが「ふるさと」を歌うとシーンと静まり返って耳を傾けてくれた。音楽は国境を超える。まさにそれを体感したのです。

そこで生まれたのが「未来の空気」という曲です。私たちがパキスタンの校庭で感じた、まるで新生児室にいるかのような“未来にあふれた空気感”を表現しました。声高に平和を訴えるのではなく、歌に思いを込めて伝えていく。そこから何らかのつながりが生まれ、一人でも多くの人が幸せを感じられるなら、こんなにうれしいことはありません。

歌に思いを込める

歌手 カズン

Cousin



photo by Shinichi Kuno

世界のさまざまな問題を前にすると、「自分には小さなことしかできない」と感じてしまうかもしれません。東日本大震災でも、多くの人がそう心を痛めていると思います。宮城県の避難所に伺う機会をいただいた時、正直「まだ早いんじゃないか」という気持ちもありました。でもそこには、私たちの歌を聞いて「元気が出たよ」と言ってくださる被災者の方、町の復興に汗を流す自治体の方がいた。この目で被災地を見て、何かを始めるのは“今”、ここからなんだと強く思いました。歌を通して、一人でも多くの人を明日へと誘うこと。そのために、できる限りのことをやっていきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ nantokashinakya.jp